

平成 27 年度第 4 回

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

議 事 録

【議事ダイジェスト版】

日 時：平成 28 年 1 月 14 日（木）午後 7 時開会  
場 所：札幌エルプラザ公共 4 施設 2 階 会議室 3・4

○隼田座長 平成27年度第2回運営協議会の議事に入らせていただきたいと思います。  
本日は四つの議事がございます。

一つ目は、平成27年度事業実施及び施設利用状況についてです。二つ目は、平成28年度の事業計画についてです。三つ目は、市民活動サポートセンターのウェブサイトについてです。四つ目は、事務ブース使用団体の選考についてです。

まず、一つ目の議事としまして、平成27年度事業実施及び施設運営状況について、事務局からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 【平成27年度事業実施および施設運営状況（中間）】

○事務局（森口係長） 平成27年度事業実施及び施設運営状況についてご報告させていただきます。中間報告になります。

年間利用件数及び利用者数についてです。

利用件数につきましては、12月末現在で1万4,161件、利用人数は5万4,043人になっております。前年比で、利用件数は96.7%、利用人数は100%となっております。

利用団体登録についてです。

12月末現在で2,509団体、そのうち、NPO法人が376団体でございます。札幌市の所轄するNPO法人の3分の1程度の法人数になっておりますので、その部分に関しましては、サポートセンターとしても、より一層、広報などを強化して、ご利用いただけるような状況を築いていくべきと考えております。

市民活動サポートセンターの四つの機能に沿って個別の事業の報告をさせていただきます。

情報提供・相談機能に関しましては、市民活動相談（専門）と市民活動促進学生プロジェクト（前期）の2事業を報告いたします。

市民活動相談のうち、税理士による税務・会計に関する専門相談です。

相談件数は平成27年度の12月末現在で18件となっております。平成26年度の相談件数と比較しますと、増加しております。

相談事例を2点紹介いたします。

一つ目は企業から協賛金を提供してもらっている、会計税務の観点から取り扱いをどのように考えればよいのか、具体的に税金はかかってくるのかというものです。

これについては、寄附金扱いとして課税対象にならない方向がよいのではないかと回答になっております。

二つ目は引きこもりや不登校の方を対象に単発事業の交流事業を新規事業として始めるが、法人市民税、法人道民税の減免対象となり得るかというものです。

今回の交流事業は単発事業であること、また、参加者から参加料を集めるものの、その

金額も大きくないということで、課税対象と考えなくてよいのではないかという回答でした。

に関しましては、今後も専門相談を強化し個別、専門的な相談に対応していこうと考えております。

市民活動促進学生プロジェクト（前期）についてです。

これは、北海道情報大学の学生を中心に組織している学生プロジェクトで、特に子どもの事業についての参加支援や広報支援、また、市民活動サポートセンターのウェブサイトについてのコンテンツ作成に当たっております。

プロジェクト会議を重ねてそれぞれの事業に向けて研修や計画をすすめているところです。夏休み期間に実施した子どもボランティア体験事業では、子どもたちの活動支援を行ったほか、活動報告パネルについての制作もしております。

このパネルについては、エルプラまつりなど多くの方が集まる機会での掲出や1階のエントランスでのパネル展示を実施し事業広報のために使っており、非常に好評をいただいております。

続きまして、研修・学習機能です。

NPOマネジメント講座と子どもボランティア体験隊、NPOインターンシップ、さっぽろ子ども記者の4事業を報告いたします。

NPOマネジメント講座は、既存の団体の実務能力の向上を目的として実施しております。全10回のうち6回まで終了しております。これまでの参加者数は延べ100人です。

テーマについては、小規模任意団体向けの会計経理、NPO広報戦略、ファンドレイジングの三つでした。

ファンドレイジングに関しましては初めて取り上げるテーマでした。事業実施後のアンケートでは「東京で実施されているような事業を札幌で受講できてよかった」「自団体の取り組みの整理、棚卸しになった」などのご意見があり、満足度については80%以上であり高い評価をいただいております。

次に子どもボランティア体験隊！とNPOインターンシップ事業についての報告です。

この2点に関しましては、事業担当者の職員から直接報告させていただきます。

○事務局（山崎指導員） ボランティア探検隊！を担当しましたサポートセンターの山崎です。よろしくお願いいたします。

この事業は、子どもたちの社会参加意識の向上や社会課題への気づきの機会を提供することを目的としており、小学4年生から中学生までの14人が参加いたしました。NPO法人サッポロ・ミツバチ・プロジェクト、シニアサロン晴れプラス、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会、NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道、麻生キッチンりあんの五団体が受け入れ先となり、子どもたちがボランティア活動を行いました。活動については、1人最大3日間として調整を行い、1団体につき2日程度の活動を行いました。

また、子どもたちの活動のサポートと記録担当として、北海道情報大学の学生で組織す

る市民活動促進学生プロジェクトのメンバーも参加しました。

参加者には、市民活動サポートセンター主催のさっぽろ子ども記者事業に参加したことがあるという子どもが4人おりました。

事業終了後のアンケートでは「ミッションを持ってみんなのために活動していることがわかった」「人の役に立つことが重要だとわかった」「お金の工面が大変だとわかった」という感想があり、満足度についてはとても満足という回答が100%でした。

NPO法人「飛んでけ！車いす」の会での活動では、ある児童が車椅子を実際に受け取った海外の写真を見て、こういう笑顔がやりがいにつながるのだなと話していたり、自分の知らないところで問題があるのだということに気づくと、それまでとは表情が変わる瞬間などもあり、子どもたちが社会的課題に気づく機会として意味のある事業であったと考えています。

麻生キッチンりあんでは、お店の開店準備や接客、呼び込みなどを行ったのですが、その様子を見ながら食事をされていた親子が、来年参加してみたいと話す場面もありました。

受け入れ先の団体からのアンケートでは「協働の視点で考えると、1団体で2日程度では、日数がやや少ないのではないか」というご意見もありましたが、NPO側の成果として「子どもたちにわかりやすく目的や取り組みを伝えることをとおして、自分たちの活動を振り返る機会になった」というお声もいただいております。

市民活動促進学生プロジェクトでは、子どもたちの活動を1日につき1枚にまとめたパネルを制作しました。子どもの目線の高さで写真を撮り、ふとこぼす言葉をメモしておく、そういうさまざまなルールを事前に設定し事業当日を迎えました。

制作したパネルについては活動報告パネル展として、9月5日から16日間程度エルプラザ館内での掲出を行いました。

来場者は416人おり「簡潔にまとめられていて読みやすい」という声を多くいただきました。以上です。

○事務局（田村指導員） NPOインターンシップを担当しました田村です。よろしくお願いいたします。

NPOインターンシップは、継続2年目の事業です。若者を対象に市民活動にかかわる新たな担い手を発掘、育成し、若者の市民活動への参加促進を図ること、さらに、若者に社会的課題と自分とのかかわりや生き方や働き方を考える機会を提供することを目的として、9月から11月にかけて実施いたしました。

受け入れ先は、NPO法人e z o r o c k、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会、地域コーディネーターかどま〜の3団体で、参加者は、男子が4人、女子が3人の計7人でした。今年度は受け入れ先を3団体にふやし、それぞれ違う分野の活動に若者が参加できるようにして、期間についても2カ月間強の設定を行いました。

はじめに9月にオリエンテーション・プレワークを2回行い、NPOのことや受け入れ先団体についての学びを行いました。会場は、受け入れ先団体それぞれの事務所や活動場

所をお借りし、3団体を回って、インターンシップ先の雰囲気を感じてもらい、自分がどのような活動に参加したいかを具体的にイメージできるようにしました。

インターンシップ期間中については、フェイスブックのグループページを利用し、参加者自身が活動内容や感想を書き込んでいくことで、ほかのメンバーの活動がお互いにわかるような仕組みづくりを行いました。

フェイスブックを用いた情報交流については、受け入れ先の団体からも大変好評でした。

また、活動期間の途中に中間報告会を行い、お互いの近況を報告し合うことでシェアリングにつなげました。

地域コーディネーターかどま〜るの活動では、おすそわけマーケットという地域の商店街の方たちと一緒にやる事業に係わり、さまざまな世代の交流、地域の中にいるふだん交流できない世代同士の交流などを行っております。

各団体で二、三人ずつの受け入れだったので、受け入れ団体からは、一人一人の希望や都合に応じたプログラムを考えることができ、ちょうどいい人数だったというお話を伺っております。

最後のシェアリングでは、参加者からの成果発表を行い、お互いに感想を話し合いました。参加者のアンケートからは「いろいろな人とのコミュニケーションのとり方を学んだ。」「みんないい人で、そんな人に自分もなりたかった。」「NPOが地域で活動している印象がなかったが、実際に参加してみて地域に根差した活動をしているということがよくわかりました。」「地域の課題や解決に汗を流すことの大切さを学び、NPOの発想力や柔軟性に感動しました。自分の意見が簡単に通るところ、それと同時に、担う責任の重さを感じました。」という感想をいただいております。自分のインターンシップ先以外の受け入れ団体の活動に興味を持ってボランティア活動に参加した者や、今後もインターンシップ先で活動を継続することを決めた者もおります。

一方、受け入れ先団体からは「若い人が来て活気づきました」とか「新しいアイデアが出た、鋭い感性を感じた。」「実施事業の意味が現場で自覚できていない大人たちに新鮮な視点で言うことで変化が期待できると感じた」「この先も事業がいろいろ発展していける可能性を感じた」という感想をいただくこともできました。

まとめのシェアリングについては、次回以降は広く参加者以外の方も参加できるようにするとよいのではないかとのご意見もいただきました。

当初予定していたプログラムは、ここまででひとまず終了しておりますが、今回参加した若者たちに、次のインターンシップ生をフォローしていくような役割を担っていただけるような仕組みづくりを今後は目指していきたいと考えております。

○事務局（森口係長）

さっぽろ子ども記者事業についてです。

今年は、桑園児童会館と連携し地域で活動するのNPOや町内会の方たちのところで取材を行っております。

子どもたちには「朝、通学のときに旗を持っているのが地域の人であることを初めて知った」とか、NPOが地域で実施しているコミュニティスペースでは、お母さんと来たことがあったという、気づきがあったようです。

NPO法人設立講座についてです。

市民活動相談員を講師として実施し、28人の方に参加いただいております。実際にNPO法人の設立を考えている方が多く、より具体的に制度や要件について理解できたという感想をいただいております。

次に、交流活動支援です。

サロン事業についてです。

今年度は、話題提供者をお迎えし実施しています。前回の運営協議会以降の実施内容としては、8月に第3回目として、札幌おはなしの会をお招きし、第4回目は9月に子どもたちを対象として縁日を企画しました。

第5回目では、NPOのための弁護士ネットワークに所属する弁護士さんを話題提供者として、NPOと法律の話ということで実施しております。

専門性の高い話題提供者であったこともあり、アンケートの回答では「札幌にこういう団体があることを初めて知った」「具体的な理解につながった、具体的な実態を知れた」「若い世代が活躍されていることに感動した」など、より身近に、強い思いを感じていただく機会となりました。

○事務局（尾崎）トライアル出展サポート事業「おためし！！出展」について報告させていただきます。

この事業は、市民活動団体の方たちの成果発表の支援として、エルプラザ内に常設出展スペースをつくり、市民の方が市民活動団体の取り組みや成果について知ることのできる場を創出することを目的として、平成26年度より実施しております。

今年度は、7月、10月、2月の3回実施しているところです。1回目の7月は6団体、2回目は11団体が出展しており、それぞれ7月が延べ697人、10月が延べ1,702人の方に来場いただいております。参加いただいた方の声からは「ゆっくりと交流し、実際の活動について知ることができた。」「人とのつながりを強く感じた。」などの声をいただいております。

担当者として、今後は、広報をより強化し、さまざまな市民活動があるということをもっと外部にPRし、たくさんの方にご来場いただける事業にしたいと思っております。

また、出展団体同士の交流としては事前ミーティングの充実などを行い、話し合いの場を大切にすることで、交流の機会をふやしていきたいと考えております。

○事務局（森口係長）最後に、地下歩行空間で実施した「マチなか×NPO」についてです。

この事業については、市民活動団体実行委員会を組織して、12月に実施いたしました。実行委員会は、11月からスタートして、4回実施しております。

札幌駅前通地下歩行空間北3条広場を会場としました。出展団体数については35団体。3日間で延べ74団体の方々に出展いただいております。

内容としてはステージ、体験、販売の3区分による発表を行いました。物品販売の他、ステージでは、ひょっとこ踊りや若者団体によるトークセッション、体験会では、車椅子の乗車体験や地域まちおこし協力隊の説明会なども実施いたしました。

最後に今年度これから実施する事業についてです。

市民活動学生プロジェクトについてです。

12月に実施いたしましたさっぽろ子ども記者の活動の様子をホームページに掲載するための動画をはじめとするコンテンツ制作を行っております。リリースは3月の予定です。また、市民活動に係るコミュニケーションツールの開発も進めているところです。

市民活動フォーラムについてです。

こちらは3月に実施予定の集会事業で、講師には藤田孝典さんをお招きし、貧困を軸に「これからの地域社会に必要なつながりとは」というテーマで、共助の地域をつくっていくためにどのようなつながりをつくる必要があるかということ、札幌の実践報告を含めながら考える機会としております。

マネジメント講座については、あと二つのテーマがございます。

事業報告書、活動計算書のつくり方、そして、NPO・ボランティア団体向けマイナンバー講座となっております。いずれも参加希望が多く寄せられております。

最後のアンケート・ヒアリング調査に関しましては、活動協会が指定管理者として運営している児童会館向けにアンケート調査をし、NPOとの協働などについて実績やこれからの希望を聞き、その結果を公開しようと考えております。

実施報告としては以上です。よろしくお願ひします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

説明内容で何かご質問、ご意見等はございますか。

私のほうから質問してもよいでしょうか。

先ほどの「おためし！！出展」のように、市民活動団体の人だけでなく、広く一般市民相手にやるようなイベントの場合、例えば、新聞等での広報活動などは行っておられるのでしょうか。

○事務局（尾崎指導員） 団体の方との打ち合わせでも、新聞などに掲載されるともって人が来るのではないかという意見をいただいております。プレスリリースなどの記者への投げ込みなども今後は積極的に行っていきたいと思ひます。

○隼田座長 多分、道新や、こういう活動でこういう団体がということ投げ込まれると、結構記事にしてくださって、いい広報になると思ひますので、ぜひご検討ください。ほかに何かございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

それでは引き続きまして、二つ目の議事として、平成28年度事業計画について、事務局よりご説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 【平成28年度事業計画（概要）】

○事務局（森口係長） 平成28年度事業計画の概要についてご説明いたします。

まず、重点目標についてです。平成28年度は大きく3点設定いたしました。

一つ目は市民活動団体の実務能力の向上および組織基盤の強化のために、活動レベルやニーズに則した研修学習事業を実施する。

NPOマネジメント講座などでは、既存の団体の方たちによりスキルアップをいただけるように、専門的な内容の講座の実施をいたしました。

参加いただく団体の方については、さまざまな活動レベル、活動の段階の方たちが入りまじっているのが現状です。活動を始めて間もない団体に必要な研修学習のメニューと、活動が5年目、6年目に入りステップアップのために必要なメニューは違うと考えておりますので、これまで実施した中で見えてまいりました要望や方向性を加味しまして、活動レベルやニーズに即した研修・学習機会を提供します。

二つ目は、多様な市民活動団体と協働することにより、子ども、若者及びNPO法人に対する体験プログラムや研修機会を拡充し、スタート支援の強化を図る。

平成27年度は、子どもや若者に対しての参加促進事業や啓発事業に特に力を入れてまいりました。その中で子どもや若者たちは社会的課題の存在や関わり方について重要な気づきを重ねており非常に有益なプログラムとなりました。また、子どもや若者たちの活動を受け入れたNPO団体の方たちからも活動を進めるうえでプラスになったというご意見も聞いております。今後も多様な団体の方たちと連携し、スタート支援や学習機会の提供に努めていきたいと考えております。

3点目は、全国の中間支援組織との連携を進め、広域的な市民活動の支援ネットワークへ参画する。

現在NPO法人日本NPOセンターに加盟したり、札幌圏の市民活動中間支援ネットワークであるアクティブ・アクティブに所属したりして、ネットワーク事業を進めているところですが、より一層、全国の中間支援組織との連携を進め全国的な動向を捉え、これからの時代に必要なNPOのための施設としてスキルアップを図っていきたいと考えております。

以上の三つを重点目標としております。

次に個別の事業についてです。

こちらに関しましては、新規事業とレベルアップ事業についてご説明いたします。

新規事業ですが、平成28年度は二事業計画しております。



市民活動に係る専門相談と寄付月間のキャンペーン事業です。

市民活動相談専門、法律相談に関しましては、弁護士を相談員とし実施します。具体的にはNPOのための弁護士ネットワークという団体と協働する予定です。こちらは東京、名古屋、札幌を拠点として活動している市民活動団体です。市民活動相談専門、法律相談については6月から3月まで、月に1回のペースで実施したいと考えております。

弁護士による専門相談を設置することにより、市民活動団体のコンプライアンス意識の向上や、より透明性のある活動につなげていくことを期待しております。

二つ目は、寄付月間のキャンペーン事業です。

12月に全国実施される寄付月間に合わせ、キャンペーン展開しようというものでございます。平成27年度は東京を中心に関連フォーラムや学習会などが盛んに実施されました。市民活動サポートセンターでも啓発のためのパネル展示やフライヤーの配布などを行いました。

新年度については、寄付月間に合わせ三つの事業を実施しようと考えております。一つ目は、パネル展示です。二つ目は、フォーラムの実施。こちらは3月に実施しているものを開催時期と内容を変更し12月に行うというものです。三つ目は、寄付月間の運営主体団体の一つであるNPO法人と協働し、子ども向けの寄付に関するワークショップを実施したいと考えております。

これらの実施により、寄付文化の醸成、活動を支えるために必要なアクションについて具体的に伝えることができるのではないかと期待しております。

次に、レベルアップ事業5事業ございます。

情報誌みんなのしみサポについてです。

現在も編集ボランティアスタッフとともに製作を進めておりますが、新年度はウェブを活用した情報発信の実施をしたいと考えております。

情報誌発行のための取材活動を進めておりますと、限られた誌面の中では表現できない記事や活動も出てきております。フェイスブックのウェブ媒体を活動し、より広く伝えていける場をつくろうと計画しております。

NPOはじめて講座についてです。

平成27年度は2回の実施だったのですが、いずれも定員を超す参加をいただいております。そして、参加者アンケートの中でも91%の方が講座の内容について「よくわかった」「理解できた」と回答しております。また、満足度については74%となっていることから、ニーズ応え回数を増加して実施しようと考えております。

NPOマネジメント講座についてです。

これについては、先ほど冒頭でもご説明いたしましたが、参加する方の活動のレベルに合わせて選択できるような階層別実施をしたいと考えております。

具体的には、基礎編、ステップアップ編としてそれぞれ違うメニューを用意します。もちろん、希望するかたについてはいずれのコースにも参加いただけるほか、個々の講座に

ついて選択して参加することもできるようにいたします。自分の活動状況に合わせ参加いただけるよう進めていきたいと考えております。

子どもボランティア体験についてです。

これは、子どもの市民活動、啓発促進事業のロールモデルとして実施しているものです。そして、ロールモデルとしての意味を深めるため、新年度には成果発表のための冊子を発行することを計画しております。

今年度、市民活動促進学生プロジェクトで制作した事業報告パネルが非常に好評であり、新年度は冊子づくりに取り組もみたいと考えております。

また、最後のNPOインターンシップでございます。

田村からの報告にもございましたが、修了生が参画し、次の代の学生たちを育成していくステージをつくるのがステップアップのポイントになっております。

さらに、NPOインターンシップについても子どもボランティア体験隊と同様に成果発表の冊子を作成しロールモデルとしての周知を強化したいと考えております。

レベルアップ事業については以上です。

継続事業22事業については、今年度と同レベルでの実施を予定しております。

最後に、数値目標を2点発表します。

一つ目は研修学習事業のうちの講座事業の定員充足率80%です。

今年度の見込み数は109%です。

新年度は、回数、レベルともに強化実施する予定ですが、充足率80%を引き続き目指して実施しようと考えております。

二つ目は、相談件数900件です。

今年度の見込みは624件なので、目標到達難しい見込数となっておりますが、新年度は専門相談も新設いたしますので、相談件数については引き続き900件としたいとかがえております。

以上で平成28年度の事業計画の概要についての説明を終了します。よろしく申し上げます。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆さんからご質問もしくはアドバイス等のご意見がございましたら頂戴したいと思います。いかがでしょうか。何かございませんか。

今年度の事業を踏まえて、新年度に向けて修正する点などを考えながら計画されていると思いますけれども、さらによくするために何かご意見がございましたら頂戴したいと思います。

計画の中に、新規事業2事業とレベルアップ事業5事業ということで、今、詳しくご説明いただきました。例えば、新規事業については2点ございますけれども、これについておわかりにならなかった点やご意見等はございますか。

○草野委員 新規事業の2番目の寄附月間のキャンペーンについてです。

全国で実施していることは聞いていまして、パネルとフォーラムとワークショップですが、これはキャンペーンという企画を打っていくのだと思いますけれども、今後、これをもう少し大きくしていくための初期ステップとして位置づけているのか。

何を言いたいかという、寄附月間をやったところで、NPOへ寄附が集まるかという、なかなかそこまではいかないですし、当事者としては距離を感じてしまうのです。キャンペーンなどはやっているのだろうなということと、それが本当に恩恵があるのかという、ちょっと距離がある話かと思います。

全国キャンペーンに参加されていくのであれば、どういう展開を目標に起きながら来年展開していこうという絵があったほうがいいのではないかという意見です。

これは、結構難しいことを言っていますので、今の時点でお考えがあればお聞きしたいと思います。

○隼田座長 事務局からご意見はございますか。

○事務局（森口係長） ありがとうございます。

キャンペーン事業の中長期展望についてということでご意見をいただきました。

寄付文化の醸成や促進については、寄付者とNPO団体両方への働きかけが必要であると考えております。寄付者については、金銭的な提供だけでなく、物品の提供やボランティアとしての参加など市民の方が明確に選択肢を意識できるような取り組みを進めます。NPO団体については、今年度NPOマネジメント講座のテーマとしてファンディングを取り上げ共感や支援を集めるために必要なスキルについて学ぶ機会を提供しました。これらの研修機会を継続して設け組織強化も並行して進めていき、共感や支援を集めることのできる活動や団体作りの支援を進めてまいります。これらを両輪として進めていきたいと考えております。

現在のところは、その程度の計画なのですが、12月の実施に際しては、綿密な計画を立案して進めていきたいと考えております。

○草野委員 僕は、札幌市の誇るべきファンディングなり寄付の仕組みとして、さぼ一とほっと基金は本当に素晴らしいと思っています。この間も、全国のNPOだったり、社会活動家の人たちが札幌に来て意見交換会をしていたのですが、さぼ一とほっと基金の仕組みは、こんなものが札幌にあったのかと本当にびっくりするのです。

これは、認定NPO法人を取らなくても控除の仕組みができるのでしょうかと、ほかの地域に住んでいる方々は本当にうらやましがる仕組みです。では、NPO側の私たちはうまく利活用できているかという、現状としては、市が一生懸命寄附金として集めてきたものを助成金としていただくということで、もっといい使い方ができる仕組みのはずなのに、ただの民間企業の助成金の制度と同じような活用になってしまっているのは非常にもったいないと思います。

そういう意味では、寄附月間のキャンペーンのところは、さぼ一とほっと基金のことをNPOがうまく使っていくのかみたいな、そういうフォーラムだったり、分科会でもいい

と思うのですが、そういうのが入ってくるといいのではないかと、札幌らしいファンディングのあり方をつくれるのではないかと思います。

○隼田座長 草野委員、どうもありがとうございました。

関連しまして、ご意見がございますか。

○工藤委員 今、草野委員が言われたように、札幌にはすばらしい制度があるということです。これは、NPOを別枠で一つつくってみたらどうかと思います。市と連携してNPOのために寄附をしてくれるというか、協賛してくれるというものです。

我々もこれを随分活用させていただいて、団体指定といいますか、事業者が企業に行って、市に一旦寄附して使わせてもらうというとてもいい制度だと思うのです。断られることは余りなく、非常にいいものです。金額は必ずしも大きくなくていいので、数を多くすれば広まっていくのではないかと思います。

NPOだけの窓口というか、さぼ一とほっと基金の窓口と一緒にうまくコラボレーションができればすばらしいと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

そういう新しい動きを考えていくような場にもつなげていけると思いながらお聞きしました。

ほかに、何か関連するようなことはございますか。

この後の議題でもさぼ一とほっと基金の名前は出てくると思いますが、結構重要なキーワードだと思います。この寄付月間とそのあたりをうまく組み合わせるような事業計画はすごく重要ではないかと思います。そこで、札幌市との連携がどういうふうにできるのかちょっとわかりませんが、ご検討いただきたいと思います。

○安岡委員 札幌市の安岡です。

寄付月間については、今年の内閣府でも随分PRしていて、気にはなっていたのですが、実は、札幌市としても、この12月に向けて何かをしようかというところまではまだ検討していない状況です。予算の段階でも情報がなかったこともありました。

ただ、さぼ一とほっと基金を所管している部署としては、寄付月間であるということで、何か検討しなくてはいけないなと思っていたところでこれを見たので、サポートセンターにやられたなと思いました。

実際に、さぼ一とほっと基金は全国的にもすばらしいシステムだとおっしゃっていただきましたが、全国的に見ると似たようなシステムはほかにもありまして、その中で他都市と比較するとすごいところは、寄付の額が桁違いに多いということがあります。

おっしゃっていただいた中には、ほかの自治体との違いがあったりと思うのですが、我々がいろいろな情報を収集している中では、特にどこが大きく違っているのかというところがわからなかったりするところもあります。

例えば、先ほど草野委員におっしゃっていただいたように、さぼ一とほっと基金をもっとレベルアップするといいますか、ブラッシュアップするといいますか、よりよい形にで

きるのであれば、またそれも皆さんと一緒に考えていく機会などもキャンペーン事業の中にあつたらいいなと思いますし、提案いただいたことがすぐに反映できるかということは別の問題になる場合もありますけれども、実際にさぼーとほっと基金をどうしていこうかという話を札幌市の附属機関で市民活動促進テーブルというものがあまして、そちらで話し合ったときに、さぼーとほっと基金もうまくファンドレイジングのような形でできないのかという話も出ておりますので、平成20年度にできて、丸8年になろうとしていますので、皆さんの意見も聞きながら、こういったサポートセンターとの事業とも絡めながら考えていけたらと思っています。

○隼田座長 安岡委員、どうもありがとうございます。

そういう形でうまく広めていくことがすごく重要ではないかと思います。多分、さぼーとほっと基金を活用しておられる方とか、こういう活動をされている方たちの間では結構知られていたり、そういう人たちとつながりを持って、さぼーとほっと基金を活用して寄附をされている方たちはご存じかもしれません。190万人いる市民の中に十分浸透しているかというところではないので、その部分をうまく広げていくような機会ができると、さらにいいのかなと思いました。

それでは、レベルアップ事業について、何かご意見等はございますか。

○平井委員 インターンシップで、修了生が次は企画の段階から参画するという新しい事業はすごくいいなと思います。

子どもボランティア体験隊も、このようにパネルで見える化してとてもいいと思います。冊子を発行すると書かれているのですが、どういう要領のものなのか、どういうところに配布しようとしているのか、教えていただけたらと思います。

○隼田座長 事務局、よろしくをお願いします。

○事務局（森口係長） 報告冊子についてです。

これについては、現在発行している情報誌「みんなのしみサポ」と同程度のものと考えております。配布先については、委員の皆さんにもアイデアをいただきながら検討しなければいけないと思っておりますが、市内の公共施設だけではなくて、NPOが運営し活動の拠点となっているコミュニティスペースなどが考えられます。次に、子どもたちや若者の集まる施設としては、児童会館や若者支援センターなどもございますので、それらを中心に若者や子どもたち自身、親子さんたちに手にとっていただけるような状況をつくっていきたいと考えております。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

児童会館などもそうですが、学校などという考えはございますか。例えば、小学校、中学校、高校、大学といろいろなレベルの学校がございしますが、インターンシップでしたら大学などに置いておくということもあるでしょうし、子どものほうは小学校ということも考えられると思います。

○事務局（森口係長） 教育機関とはぜひ連携したいと考えております。しかし、これま

での業務の中ではつながりが薄く、広域な連携までは至っていないのが現状です。近隣の北9条小学校にチラシを配らせていただくなどもございますので、引き続き関係づくりをすすめる小学校、中学校、高校、大学などにも配布したいと考えております。

○隼田座長 多分、大学などは、直接、大学の事務局に郵送してしまって、そういう学生が目に触れるようなチラシを置いてあるところほどの大学にも必ずありますし、そこに置いていただけたらと思いますので、そのまま送ってしまってもいいのではないかと思います。小学校の場合はいろいろあるかもしれませんので、そこはいろいろと検討しなければいけないかもしれません。

ほかに何かございますでしょうか。

○安岡委員 私も、子どものボランティア体験隊！とNPOインターンシップについては、いい活動だと思います。若い方たち、次代を担う方たちに対する周知は非常に重要だと思っています。この冊子も、どこに配るかによって作りが変わってくると思っています。実際にサポートセンターとしてこの活動を続けるからぜひ参加してほしいということなのか、こういったこともできますという形なのか、自主的に子どものボランティアを受け入れてくださいとか、インターンシップを受けてくださいというのは非常に難しいと思うのです。どちらかという、サポートセンターがこれからも続けていくので、こんなこともできるので、興味があったら参加してくださいという形になっていくと思いますので、実際にやるときの周知と合わせてPRしていくという形が必要だと思います。

それから、子どもたちや学生にとっても非常にいいのですが、先ほどのアンケート結果にもありましたように、受け入れてくださる団体にとっても振り返りになったとかよかったという話も非常にあるようなので、実際に受け入れてくださる団体を選んでいくのはすごく難しいと思うのですけれども、受け入れていただく団体も広がりが出るような形になっていくといいのかなと思いました。これは意見です。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

いろいろな団体にこういうものがありますということをお知らせするだけで、ぜひうちにもという声がかかるかもしれませんので、そういう活動の仕方はよろしいのではないかと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

○平井委員 冊子もとてもいいと思うのですけれども、なかなか手にとっていただけないこともあります。後の広報のことともつながってくると思いますが、動画発信をするとか、こういうパネルがすごく目につくので、スペースの問題もありますけれども、持ち回り展示をしてもらおうとか、大学などでも展示をしていただくとか、そういうのもいいのかなと思いました。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

いろいろな広報の仕方がありそうな気がします。

ほかに何かございませぬでしょうか。

○荒井委員 3番目のNPOマネジメント講座ですが、階層別研修学習機会の設定とありまして、これは僕の感覚なのかもしれませんが、基礎編とステップアップ編が逆なのです。僕の中では、基礎編がマーケティング、中期計画を含む事業計画で、ファンドレイジングです。応用編が会計・税務、広報戦略という捉え方です。マーケティングは、ミッションに対するスキームの組み方の流れですし、中期計画ありきでそもそも団体は立ち上がるわけです。

これは、あくまでも僕の感覚ですが、実は、去年、文化庁の事業で、札幌、函館、帯広、旭川を回ってファンドレイジングの講師を務めてきました。集まった方々は、これから団体をつくる以前の方たちです。一番初めは、ファンドレイジング、収入構成を考えなければそもそも団体は立ち上げられないだろうということで、その辺で意識が一致していたのですが、収入構成をしっかり押さえてから第一歩だよねという話がありました。

ここに書かれている形でもいいと思うのですが、ファンドレイジングについては、もう少し初級のところから、あるいはNPO未満のところからそろそろ語ってもいい時期に来ているという感じがいたします。

あくまでも一参考意見としてお聞きいただければと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

このあたりに関しまして、中協委員は学生時代からいろいろ活動されていたご経験からいかがですか。

○中協委員 私がやっていた活動は震災支援ですが、始めた当時は2011年で、札幌や北海道にいる人たちは、現地に行けないから、お金の支援をしようということで、最初は気持ちだけで動いていたのですが、何となくお金もちゃんと集まっていたのです。今、この団体は引き継がれていきまして、ことしで5年目を迎えるのですが、やはり金銭面で困っているという話はよく聞きます。学生だと働いたこともないですし、金銭感覚も、どれくらいのお金があれば何ができるかということなかなか具体的に想像できないのだろうとすごく感じます。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

実は、私も荒井委員と全く同じことを思っています、私が指導している学生団体が、今年度しみサポに登録させていただいたのですが、その団体は、ほぼ毎年、フルメンバーが入れかわる団体なのです。1人か2人、継続する子はいるのでありますが、ほぼ全員が入れかわってしまいます。知恵の継承をするのがなかなか難しい状況にある中で、活動資金を集めなければいけないのです。その活動資金を集めるのに物すごく苦労していて、私の知っている範囲内でこういう補助金があるという情報を渡してあげて、書類を書くところもかなりサポートしてあげて、とるという状況です。

そういうことを考えると、特にここを活用する人たちの年齢層が変わってきたりというお話もありましたけれども、若者が結構ふえてきたりということもあるのではないかと思います。そうなのですが、そういったときに、先ほど中協委員がおっしゃったように、学生であ

るがゆえに、いろいろな社会経験がなさ過ぎてどうやっていいかわからないという中で、こういった講座を受けるとしたら、会計財務よりも、まずどうやって事業を立ち上げるかというところだと思うのです。

ですから、何がうまくいきそうなのかというめどを立てるためのマーケティングのところも必要ですし、ファンレイジングもものすごく必要です。

学生が毎年入れかわったり、かなりの人数が入れかわっていくことを考えると、例えばことしのように、11月とかの遅い時期にそういう講座があると、そういう若者たちにはちょっと間に合わないかなという気がしております、できれば年度の早い時期にそういうところの講座があると、多分、若い学生たちがやっているような活動は助かるのではないかと思います。

ですから、私も、荒井委員と同じで、これは逆なのかもしれないという印象でした。

ほかに何かございますでしょうか。

○草野委員 これはアイデアですが、子どもボランティア体験で新聞のようなものがありましたね。僕もそうですが、NPOの人たちはしゃべりたがり屋だと思っております、取材されるのが大好きで、お話を聞いてくれるのがうれしいのです。子どもとか若者が相手だと、30分でいいと言われても、1時間半しゃべっていることがしょっちゅうあります。

例えば、しみサポで、今、ここも編集ボランティアスタッフが担当していますとあるのですが、最近のメディアのつくり方は、活動を伝えるのではなくて、人を出すほうにどんどんスイッチしてきているので、そこを出していったほうがいいのではないかと思います。例えば、子どもとか若者に団体の代表の方を取材させて、それがウェブサイトなどに掲載されているのは非常におもしろいですし、聞いた人も聞かれた人も基本的には気持ちよくなります。

ですから、ezrockの話になってしまいますが、情報の出し方は個人にどんどん力を当てるようにしていってまして、その人がどういう思いで、どういう活動をしていて、自分がどう変化していったのか、その人の人生背景などが見えてくると、読み手としては非常におもしろいと思います。札幌人図鑑の動画で紹介している方などにもいますが、そういうことを若い人たちがやっていくことが、子どもボランティア体験隊かNPOに対してかわからないですけども、その中の一つのカリキュラムといいますか、プログラムの中にその団体さんに取材に行って、実際にどういうことをどうしてやっているのですかという、どうしてやっているのですかというこの質問が、実は組織基盤強化なのです。

若い人があなたのところはなぜそんなことをやっているのですかという、そもそもそれは何か意味があるのですかという失礼な質問をしてしまうとところが答えられないNPOは、そこが整理されていないという話なので、それ自体がどちらにとってもいい形になるのではないかと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

事務局でご検討いただければと思います。



ほかに何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○隼田座長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、三つ目の議事に移らせていただきたいと思います。

札幌市市民活動サポートセンターウェブサイトについて、事務局からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**【札幌市市民活動サポートセンターウェブサイトについて】**

○事務局（森口係長） それでは、三つ目の議題の札幌市市民活動サポートセンターウェブサイトについて、説明いたします。

札幌市市民活動サポートセンターでは、市民活動について伝えるウェブページ、さっぽろまちづくり総合情報ポータルの管理運営をしております。

このサイトでは、市民活動サポートセンター利用案内や市民活動団体の登録情報のほか、キッズページや助成金情報、市内の会議室情報などのお役立ち情報などを発信しており、市民の方たちや市民活動団体の方にもご利用いただけるサイトになっております。

このサイトは、平成21年度にリニューアルを行い現在のスタイルになってから既に6年が経過しております。その間には利用する方たちのニーズや技術の変化などもあるかと思っております。

また、来年度には、札幌市が設置する市民活動情報提供システムの運用開始も予定されております。

これらのことから札幌市市民活動サポートセンターのウェブページについてもコンテンツの見直しが必要なのではないかと考えております。

本日は、委員の皆様、プレスリリースや効果的な広報ツールの作り方、お役立ち情報に当たるものや活動の支援につながるコンテンツとはどのようなものかという具体的なご意見などをいただければと考えております。

よろしくお願いいたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

今のご説明にありましたように、市民活動サポートセンターのウェブサイトとして、今まで機能してきたさっぽろまちづくり総合情報ポータルの内容について検討することになっておりますが、現在、札幌市が構築している市民活動情報提供システムが大分見えてきましたので、この概要をご説明いただくと、どういうふうに機能が移行するのか、今まで足りなかった不満点で挙げられていた部分がどのように解消するのかということが見えてきて、議論も進めやすくなると思っておりますので、札幌市からご説明いただければと思いま

す。

それでは、よろしくお願ひいたします。

○札幌市（長尾NPO法人審査担当係長） 札幌市の長尾です。

市民まちづくり活動団体情報提供システムの概要についてご説明させていただきたいと思ひます。

札幌市では、市民まちづくり活動団体として、まず、NPO法人、こちらの市民活動サポートセンターの利用登録団体、先ほどお話が出ましたさぼーとほっと基金ですが、こちらにも登録するような制度になっておりまして、そちらに登録している団体ということで、三つのカテゴリーの市民まちづくり活動団体があります。

これまでは、これらの団体をそれぞれ別々のデータベースで管理していました。そのため、市民もいろいろと調べるときは、それぞれのカテゴリーごとの中で団体を調べていただくという状況でございました。

これを一つのデータベースに集約して、団体の基本情報とか、それに加えて、団体から直接イベントをやりますとか、ボランティアを募集していますとか、そういう情報も発信していただくという仕組み、システムをつくって、市民に向けて市民まちづくり活動の理解促進を図る目的でシステムを構築したいと思っております。

先ほども申し上げましたが、中心となるのは、団体情報のデータベースです。「NPO法人」「サポートセンター利用団体」「さぼーとほっと基金利用団体」のデータを統合しまして、基本情報、名称、事務所、代表などの基本的なデータをデータベースに集約して、全てのカテゴリーの中から検索することができるようになっております。

それに加えまして、それぞれの団体のイベントの情報、ボランティア等の募集情報、これまでにこんな活動をしましたということ写真なども加えて報告していただきます。報告といいますか、PRしていただくようなイメージですが、それを登録して、同じサイトの中で市民に向けて情報発信できるというものです。

それから、団体の方がPRできるような仕組みになっているのですが、それだけではなく、例えば市とか、場合によってはサポートセンターということもあるかもしれませんが、別の切り口で取材をして、先ほど草野委員からもお話がありました、団体の人に注目して紹介する。そういった別の角度から、市民にとって親しみやすいような形で活動、団体あるいは人を紹介するというコンテンツもあわせてつくって、同じように情報提供していきたいと思っております。

このシステムのその他の特徴として、市民の利便性を向上しようということで、スマートフォンのサイトをつくったり、GPS機能と連動して、近くでどんなイベントをやっているかという位置情報を発信するとか、団体が情報を更新していくのですが、あらかじめこういう情報が欲しいというものを登録しておいて、それが更新されればメールで配信されるという機能をつけたり、それから、これは団体にとってのメリットですが、ただ単に情報が登録されているだけではなくて、新たにサポートセンターの利用を始めたい、さぼ

一とほっと基金に登録したいというときに、窓口に行って登録するのではなく、このシステム上で一括して登録できるということが可能になるという特徴があります。

こういう仕組みをつくっていくのですが、これまで、さっぽろまちづくり総合情報ポータルに合った機能がこちらのほうにかなり移行する形になりますので、現在のさっぽろまちづくり総合情報ポータルとの関係がどうなるのかということで、それが（２）になります。

まず、このシステムが利用できるサイトをつくるのですが、そのサイトを新たな総合情報ポータルサイトのトップページとしてつくります。

この中には、お知らせや新着イベント、団体検索の画面といった情報が並んでおります。

イベントを検索する、新着イベント、カレンダーを表示する、その上にサポートセンターからのお知らせというものがありますが、こちらも移行する形になります。その他、団体情報検索とかメールマガジン、まちづくりの活動紹介というものが新しい総合情報ポータルに移行されて、NPO法人やさぽ一とほっと基金と同様の情報とセットになって情報提供するというような形になります。そのほかに残っている総合情報ポータルの情報は、お役立ち情報とか、その左側にある参加してみよう！という情報ですが、こういうものについても総合情報ポータルの重要な要素ということで、新しいポータルのほうに移行したいと思っているのですけれども、その際に、新たに統合するに当たって内容等を再整理して、その上で加えていこうと考えております。

スケジュールについてですが、今年度末、平成28年3月末までにシステムを完成させる予定です。その後、団体からの情報発信が大変重要になってきますので、稼働が7月ですが、それまでの間、団体の方に周知して、いろいろな情報をこれに盛り込んでもらうことを考えております。

それと同時に、先ほど申しあげましたコンテンツも、内容を詰めまして、この期間で作成し、平成28年7月からシステムのほうの本格的な稼働を始めたいと思っております。

市民まちづくり活動団体情報提供システムの説明は以上です。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

それでは、ここまでの説明を踏まえまして、委員の皆様から、ウェブサイトについて、必要なコンテンツに関するアドバイスをいただきたいと思います。今、札幌市のほうからご説明がありましたように、これまでのさっぽろまちづくり総合情報ポータルの主要機能から順次新たなシステムに移行していくということで、中心的に考えたいコンテンツを再整理の上で移行するというございます。今あるコンテンツとして、例えば、これはもう古いのではないかというものがございましたら、それはそれで言ういただければと思いますし、今載っているもの以上に大切なものがあるので、こういうものをぜひ載せるべきだというご意見などがありましたら頂戴したいと思います。忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

工藤委員、お願いいたします。

○工藤委員 とてもすばらしいものができてくるのですね。

きょうも地震がありましたけれども、災害の避難場所をどこかで入れられないかと思えます。こういうものの中で避難場所を知れるということは余り考えないのですか。別なところにあるということでしょうか。

○隼田座長 これは、札幌市さんの情報提供の枠組みですね。

○安岡委員 避難場所の情報となると、札幌市の危機管理対策室になります。今回、新たにつくろうと思っているのは、まちづくり活動にはどんなものがあるか、どこでやっているかという情報なので、緊急的なことが発生したときにどういう情報を発信するのかという問題は別なのかもしれません。通常の中で避難所等の情報を出そうということは、今のところ考えていません。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

ほかに何かございますか。

千葉委員、何かございませんか。

○千葉委員 まだイメージが湧いてこないのですが、今、札幌市からご説明いただいたものは、新しいサイトのイメージができています。これは、アクセシビリティのところは考えられていると思いますし、UDということもあると思いますが、そこら辺の配慮は大分されているのでしょうか。

○札幌市（長尾NPO法人審査担当係長） 札幌市のホームページの作成の基準がありまして、ユニバーサルカラー、視覚障がいの方、聴覚障がいの方が見られるような、そういうサイトにつくるという基準になっておりますので、それを踏まえて作成しております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。

○荒井委員 ちょっとずれるかもしれませんが、1階の情報センターの蔵書は検索できるのですね。これは、今、しみサポのホームページからでもすぐに行けるようなあんばいになっているのですか。

○事務局（森口係長） 情報センターの情報検索に関してですが、情報センターのページの中にございますので、ここからサイト内検索でダイレクトに行くのは難しく、一度情報センターに行ってからとなります。

○荒井委員 これは、新しいポータルの方ではどういう位置づけなのですか。考え方としては、あくまでも情報センターに行かないと蔵書検索には行かないということですか。

○安岡委員 恐らく、そうなるのではないかと考えております。ただ、お知らせの中で、こういったことをやっていますという情報を出していくことは十分に考えられます。

もともと、新しいものをつくろうとなったときに、団体さんにはいろいろな団体登録をしていただいて、情報発信をしていただきたいと思いますし、このページ自体は、どちらかというと市民の方向けということを非常に意識していて、市民の方がこういったところで、何をやられているのか、どういう活動があるのか、自分も参加してみようかなと思

っていただきいとというのが、そもそものコンセプトというところがあります。

ただ、団体に対する情報というところもあって、その中にはサポートセンターの情報というものも、あくまでこのページの一つのリンクをして飛ぶという流れになっていくと思っております。ですから、サポートセンターとかエルプラザとか情報センターの情報は、このトップの中ではなくて、そこからつながっていくところに行くというのが今のところの基本的な考え方です。

○荒井委員 札幌エルプラザは公共施設の中に情報センターを持っていて、しかも、その蔵書が充実しているというのは全国でもまれなケースだと思います。非常に優秀なケースだと思います。事あるごとに誘導して、そちらに情報センターがあって、非常に充実したラインアップがあるという誘導をいろいろな面を出していただいたほうが市民にとってもNPO活動にとってもメリットが多いと思います。あくまでも参考意見です。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

千葉委員、お願いいたします。

○千葉委員 僕も、情報センターで蔵書を借りて市民活動のことを勉強する、自分の携わっている業務の専門性のある部分を書籍から学ぶということをやります。ですから、市民に市民活動を浸透させるというか、イメージをつくっていく、切り口をどんどんつくっていくという意味で、蔵書を活用していくというのはいい見せ方だと思うのです。

今、荒井委員がおっしゃいましたけれども、市民活動センターの下に情報センターがありまして、その図書から入るというやわらかい入り方、触れ方があると思います。

ちょっと話が飛んでしまいましたが、例えば、NPOの方にインタビューに行って、その人の大事な1冊を紹介していただいて、それが情報センターにあるというのは、親しみとしてはいいのではないかと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

○安岡委員 そういう出し方であれば、コンテンツの中で取り入れていくという考え方はあると思います。皆さんのご意見を聞きながら、今、我々がイメージするのはこうですというふうにするつもりもありません。ただ、トップページは、余りいろいろな情報を載せてわかりやすくしたくないという思いもあるものですから、そのあたりは皆さんの意見を聞きながら、本当にサポートセンターとも話をしてよりよい形でと思います。

ただ、先ほど長尾係長のほうから、NPOの団体の方にインタビューして、そして、そういったコンテンツで興味を持ってもらいたいという話をしていましたけれども、それが蔵書であるということは十分考えられると思いますので、また、いろいろと話を考えたいと思います。

○隼田座長 ありがとうございます。

工藤委員、どうぞ。

○工藤委員 札幌市のまちづくりセンターというものがありまして、とてもいい機能をしていて素晴らしいと思うのですが、そこと連合町内会がかなりリンクしています。

連合町内会の部分はここに入ってこないのですか。

○安岡委員 実は今、私どもの内部でもどうしようということで、課題認識はしております。

こういうまちづくり活動をする場合には、町内会というのも関係しているので、町内会の位置づけはどうしようかということで、これからまた考えていこうと思います。

実際に、今後つくっていく中でも、先ほど申し上げたように、附属機関に促進テーブルがございますので、そういうところからも意見を聞き、あるいは、実際にでき上がったときには、団体の方にも、皆さんにということは難しいと思いますが、使い勝手を何人かの方に確認していただいてやっていきたいと思っていますので、町内会については、もう少し検討する時間をいただけたらというふうに思います。

○工藤委員 町内会は、どこも若い人がなかなか入ってこなくて困ってしまっているのですけども、こういうところに切り口があって、もう少し若い人たちでも一緒になって入れるもの、活動できるものがあれば、とても活性化していいのではないかと思います。どこかでつながって入っていけるような何かがあればと思います。

○安岡委員 サポートセンターにもさぼーとほっと基金にも、町内会も登録していただけるので、別のカテゴリーで何か用意するかどうかはさて置いて、一括で登録できる、さぼーとほっと基金も利用できる、サポートセンターも利用できるという中で、団体として登録していただいて、いろいろな活動の情報も町内会の方から発信していただければ、いろいろな人に見ていただけるサイトになってきますので、その利用についてもぜひ周知していきたいと思います。また、そういう形での町内会との連携は十分に考えられると思います。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

ほかに何かございますか。

中脇委員、お願いします。

○中脇委員 三つほど気になる点があるのですが、まず、札幌まちづくり活動団体情報提供ウェブサイトは、すごく見やすく、かわいいなと思います。

一つ目は、情報を探すという検索の部分がなぜ下のほうにあるのかが気になりました。検索サイトでないので上になくていいのかもしれませんが、私としては上にあったほうが探しやすいと思いました。

○安岡委員 これは、まだ途中経過でして、お知らせも大事なのですけれども、お知らせは下だと考えております。団体検索が上のほうがいいのか、情報を探すのが上のほうがいいのかということはあると思うのですけれども、お知らせは下のほうで、検索は上のほうのつもりで進めています。

○中脇委員 ありがとうございます。

また、会員、ボランティア等の情報というのは、会員とかボランティアの募集情報ですね。ここに寄附のお話とか物資の支援ということは書かれないのでしょうか。

○安岡委員 このイメージは、団体が発信する募集情報ですから、寄附や物資までは考えていませんでした。実際に同じようなカテゴリの中で扱えるかどうかも含めて、また検討させていただきたいと思います。

見る方が誤解するとかわかりづらくなってしまうと難しいかもしれませんが、そのあたりも、皆さんの意見を聞きながら、新たなご意見ということで検討させていただきたいと思います。

○中脇委員 市民活動に参加する参加の仕方が必ず団体に出向かなければいけないということではなくて、先ほどもお話が出ていましたけれども、忙しくても参加できる方法の一つとしてそういうものがあるということも伝えられたらいいと思います。

最後に、さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイトですが、軸がどれなのかかわからないのです。札幌のまちづくりのことを伝えたいのか、サポセンのことを伝えたいのか、市民活動全般について知ってほしいのか、どれがメインなのかかわからないのです。その点はいかがでしょうか。

○隼田座長 事務局からお願いします。

○事務局（森口係長） タイトルにもあるとおり、さっぽろまちづくり総合情報ポータルということですから、ここに来れば、市民活動サポートセンターのことだけではなくて、そのほかの活動や市民活動ではないまちづくり活動、町内会活動などの実践事例もここに来れば一括して見えるようにするという設計でスタートしております。

実際にNPOについて伝えるサイトなのかとなると、それだけではないというのが現状です。ただ、ポータルという性質上、たくさんの情報にここを入り口としてアクセスしていくための情報をできるだけそろえていくという方針なのが現在のサイトであろうと思います。

○中脇委員 ありがとうございます。

うまく提案できないのですけれども、情報をもっとうまく整理できるのだろうと思います。

○隼田座長 情報整理の仕方について、ご意見がある方はいらっしゃいますか。

今ちょうど出てきていて、今回、新しいデータベースのシステムがその上にかぶってくるトップページの部分が新しいさっぽろまちづくり総合情報ポータルのトップページに置きかわる中で、しみサポのページとしての位置づけの部分とまちづくりの情報を提供するページの部分と階層が分かれてくる感じになってくると思います。そういう中で、どういうふうに情報の切り分けをしたらいいのかということでご意見がある方はおりますか。

千葉委員、お願いいたします。

○千葉委員 情報の切り分けになるかどうかわかりませんが、今、札幌市から見せていただいたものは、ウェブのデザイナーがいらっしゃると思いますけれども、基本、ウェブは横書きですから、人間の視線は必ず「Z」の動きになると思います。ですから、そこにどういうものを置くのかというところで情報をどう見せるのかという交通整理はトップペー

ジから始まっているということがあります。

今、中脇委員が言っていました、何がメインなのか、どこが軸なのかというところは、デザインの置き方に出てしまっていると思います。どこを視線で追っていったらいいのか、視線の落ちどころがないということになっていると思います。詳しいことは、ウェブの専門のデザイナーに伺ってください。

僕はそう感じるので、デザインの時点からかなりシンプルにして、そこから開いていってどういう階層なのかというつくり方をしていかないと、また二番煎じみたいなことで苦い思いもあるのかなと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

草野委員、お願いいたします。

○草野委員 見やすくなるのは難しいと思います。なぜかという、まちづくりというコンテンツ自体が物すごく幅が広く、かつ、そこに市民活動を重ねてしまっています。これを交通整理してわかりやすくなるというのは、民間であればできるのですけれども、ある意味、顧客をかなり絞り込んでしまえばいいだけの話なので、その人にとってわかりやすいページなのだとつくればいいのですが、行政がつくるということで、たくさんの人たちのニーズにできるだけ応えていこうとすると、かなり情報を盛り込むので、仕方がないのかなという気がしています。

むしろ、お願いがあります。

まず、無理に盛り込まなくていいと思いますぐらいしか言えないです。むしろ、今、せっかく三つを統合するのに、統合したら業務量がふえてしまったということになって、本末転倒のような話だと思うのです。そう考えると、いろいろな声があると思うのですけれども、ほかのところ飛ばして解決できるのだったら、無理にここに載せないで、極力減らして行って、むしろ、支援する人たちがウェブサイトを更新することが仕事になってしまっただけだと思ってしまうのです。NPOのパワーアップをするために本来の業務があるわけであって、どうしても情報が必要とされることに全部応えていくと、更新の手間などで本当に大変になっていってしまうと思うので、そこら辺はほどほどでいいのではないかと考えています。

ただ、その中で、先ほど二番煎じという言葉があって心配なのは、今のデザイン案を見たときに、NPO側が自分たちで更新して発信して行ってくださいというスタンスだと思うのです。これは、正直なところ、結構厳しいです。お知らせでNPOが発信していく人たちがいるかとなると、最近はいろいろなところで情報を発信して行ってくださいというのがNPOに降ってきてまして、それはそれで大変なのです。

もし可能であれば、一つは、記者が見てくれているというのがあるとうれしいです。つまり、プレスリリースと同じような効果があるということです。ここに情報を出すと道新やいろいろな記者などが見てくれていて、そこが少し引っ張ってくれるのではないかと、そのようなメリットが少し見えてくると、そこに出しておけば拡散するなど。あとは、全国



組織とか、全国的に情報発信しているところと提携なり連携なりができるようになってくると、極端な話になってしまいますが、NPOが発信しているところに出すと、運がよければヤフーニュースの地域のところに出ることがあったりします。ほかのところはそのネタが飛んでいく可能性があるという広がりがあるのか、そういうメリットがないと、なかなか更新をしなくなってしまうと思います。ですので、その辺のひっかけるネタがあるとうれしいと思います。これは、できる、できないはあると思いますが、リクエストです。

○安岡委員 実際に情報発信してくれるのだろうか、使ってくれるのだろうかというのは、つくっても使ってもらわないと全然意味がないので、どうしたら団体がアップしようと思ってくれるのか、あるいは、団体がフェイスブックを自分たちでアップしたら自動的に載るようにならないのかということも話していました。

実際には、プレスが見てくれるとうれしいというのはわかるのですが、プレスの人をどう呼び込むのかということ、我々もわからないところです。とりあえず、情報の拡散という意味では、SNSで拡散できるような形にするとか、実際に登録してくれると、一番新しいものが載りますということで、自分たちのところが上に来るように出してくれないかという話もしていたところです。先ほど、全国組織と連携するとヤフーニュースにピックアップしてくれるという話もありましたけれども、こういうことをすればこうなるということがあれば教えていただくとか、団体の人にも実際に使っていて、こういうものだったら入力してみる気になるかなという話もいただけたらと思います。

もともとでき上がったときに団体の情報が入っていないと、幾らできましたよとプレスリリースしても、市民の方が見てみて、何も情報がないではないかということで、それっきりで見てくれなくなると思います。

そのあたりはどちらが先かということもありますが、うまく循環させて、ここに出せばこんなに人が集まるとか、ここに出せばこんなふうに広報されるというページにしたいと理想としては思っているのですが、いろいろな情報をいただきながら、よりよい形にしたいと思います。

○草野委員 プレスリリースは、結構面倒くさいのです。一回一回つくって、束にして、市まで行って記者クラブに出すというのは、やらなきゃ、やらなきゃと思いながら、おっくうになってしまっています。そことつながれるのは、連携の仕方とかシステム上の話を全て無視して言っていますが、それぐらいのメリットがないと本当に発信しなくなってしまう。

僕たちとしては、そのプレスを打ちたいといつも思っています。広報のときに最初に市との接点を考えるのは、プレスリリースのときしか浮かばないです。NPOが発信してメリットをぐっと感じるのは、あそこに行けば全部のメディアにわっと流れるというのはすごくメリットがあると思うので、今、そことの連携しかアイデアがないです。ボタンを押せば、プレスリリースのフォーマットに変換されてすぐに出力できるのかどうかわからな

いですけれどもね。

これも情報提供になりますけれども、今、ヤフーは、どうやればNPOや地域活動をしている人たちともっと接点をふやしていったって、社会の課題解決のために役に立てるのかということを実際に模索していますので、連携のアイデアなどは話をしてみる価値があるのではないかと考えています。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

いろいろな意見が出てきましたが、プレスリリースのフォーマット云々はさて置き、メディアの記者さんたちは、少なくともインターネット情報をソースにして、スタートラインにしていろいろとアプローチをすることは結構あると思います。少なくとも、そういった方たちにこのリリースの情報を流して、ここから見てぜひとっていただくという働きかけをするだけでも大分違ってくるのではないかと考えました。

それから、先ほどの情報の整理の部分ですが、トップページにも関係してくると思いますが、私が思ったことをお話しさせていただきます。

見る人が市民活動に参加したい人とか、参加の仕方も、直接参加するものもあれば、物資の支援、寄附をするといういろいろな参加の仕方があるというお話があったときに、行動パターンといいますか、行動の種類でポータルサイトからどこかのページに飛ぶという整理の仕方をする、ポータルサイトのトップページをかなりシンプルにして、情報にダイレクトにアクセスしやすくなるのではないかと考えました。

例えば、「学ぶ」というボタンがあると、先ほどの情報センターの本を検索するところに、例えば、ここにこういう本があります、検索システムはこちらみたいところに飛んだり、ほかにファンドレイジングとかNPOの講習会情報に飛んだり、学びの場を提供するようなイベント情報に飛んだりするようなページに飛べるということですね。また、「参加する」というボタンを押すと、例えば寄附をするとか、物資の支援をするとか、その他実際にイベントに参加したり、メンバーとして、スタッフとして参加したり、ボランティアとして参加したりというボタンなりがあって、より具体的な情報にたどり着ける。そうすると、トップページにある会員ボランティア等の情報とか活動報告の部分とか新着イベントという情報にも、より適切な情報、カテゴリーにたどり着きやすくなるのではないかと考えました。

ですから、そのようなことを左上にボタンを用意していただいて、スマホなどでも同じような形にできると思うので、団体情報を検索するというのも、「学ぶ」「調べる」みたいなものでもいいかもしれませんが、そのようにカテゴライズするというのはいいのではないかと考えました。

私の進行がうまくいってなくて、当初の予定時刻は大分過ぎております。申し訳ございません。最後の議題に移りたいと思いますが、その前にこれだけということはございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○隼田座長 続きまして、四つ目の議事としまして、事務ブース使用団体の選考について、事務局からご説明いただきたいと思います。

**【平成28年度入居分事務ブース使用団体選考について】**

○事務局(森口係長) それでは、事務ブース使用団体の選考についてご説明いたします。

事務ブースにつきましては、選考委員会を経て入居団体を決定しているところです。その選考委員につきましては、要領の第7条ですが、運営協議会のうちから協議会において推薦された者を含むと規定されていますので、前回の運営協議会の中でも委員の選出をお願いしたところでございます。

前回の運営協議会の中で、平成27年度分の選考委員の選出をお願いしますということで、隼田座長と草野委員に就任していただいておりますので、今回の選考につきましては、このお二方に継続して就任していただき、4月入居分、現在募集中で2区画の募集をかけているところですが、そちらについての選考に当たっていただきたいと考えております。

委員の皆様、いかがでしょうか。

○隼田座長 皆様、いかがでしょうか。

何かご意見はございますか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○隼田座長 それでは、よろしく願いいたします。

**【その他】**

○隼田座長 それでは、議事は以上になりますが、きょうはこのメンバーでの最後の運営協議会になりますので、ご意見、ご感想等がありましたら、簡単に一言ずつ頂戴したいと思います。

荒井委員から順番にいただきたいと思います。

○荒井委員 私どもも、昨年、一般社会法人になりまして、市民活動サポートセンターの相談窓口相談を訪れてから8年になります。8年間、育てていただきました。ぶっちゃけて言うと、我々の団体は、そんなにいいことをしているところではなくて、足りていない部分を足しているだけの話で、本当は僕らの活動はないほうがいいのです。札幌市以外の自治体が当初予算をきちんと執行していれば済むだけの話で、それができていないので、僕らは動いているわけです。札幌が全道の役に立っている一つの事例でもありますし、札

幌市市民活動サポートセンターが全道の役に立っていることの一つの証左でもあるのかなと思います。

これからのますますの発展をお祈り申し上げます。

○草野委員 二つです。

今の荒井委員のお話を聞いていていつも思うのですが、今、僕の団体も15年目になっております。学生のころから立ち上げて、紆余曲折があつてここまで来ております。実は、事務所が一時期なくなって困ったときも、そのエルプラザのコーナーを2カ月ぐらい、事務所がわりに使っていた時期がありました。ここに来るまでに必ず利用していた場所だったりするのですね。ほかの団体もそういうところはいっぱいあると思っているので、一度、どこかでそのような成果、エルプラザ愛をみんなで語り合ってもいいのではないかと思います。あのときがなかったらうちの団体はここまで来られませんでしたということが絶対にあるはずです。

うちの団体では中間支援組織がなかったら今はなかったですと言っております。皆さんは、意外とそういうところを見落としていて、団体がなかなか育っていないという話をするのですけれども、うちは大分育てていただきましたということがあるので、その辺を追っていくということは大事ではないかと思います。NPO業界を振り返るとするのは大事なのかなと思います。

また、これからはNPOが淘汰されていく時代に入っていくと思います。これは非常に厳しくなってきました。その中で、力のあるNPOがふえていかないと、この業界自体がこれからどうなるのかという時期に来ていると思っています。

そういう意味では、中間支援機能のより一層の強化と北海道全体でのNPOの発展、その核となるのは札幌だということは間違いないと思いますので、ここは踏ん張りどきではないかと思ひまして、僕も微力ながらかかわってと思ひます。

よろしくをお願いします。

○工藤委員 私自身は、2期にわたってお世話になりましたけれども、実際は、定年をとつくに過ぎてしまつておりまして、個人で参加しているというところですが、最初から見たら、とても活発になつたといひますか、エルプラザ自身もそうですし、市民活動サポートセンターの事業もそうです。また、地下歩行空間も活用されて、大きいのではないかと思ひます。ただ、これでも知られていないところが多いのではないかと思ひます。

ホームページをしっかりつくるというところから、これから知られていくのだろうと思ひますが、そこに少しでもかかわれてとてもよかつたといひますか、勉強になつたと思ひます。ただ、まだちょっと物足りないので、一個人としても次にかかわるといひますか、支援できればなという気でおひます。

せつかくですので、ここがもっともつと市民にわかるような、あそこに行けばいろいろな情報があつてとても助かるとか、先ほども言ひました札幌市がやつているさぼーとほつと基金もそうですし、まちづくりセンターもすばらしいと思ひます。

ですから、よそに自信を持って紹介できるようなものをたくさんつくって、地域の人たちも誇れるような部分を少しでも多くつくればなと思います。これからが課題だろうと思います。

今までずっと病院とか介護施設のアドバイザーをしてきましたけれども、非常に厳しくて倒産に入っていく、吸収合併の真ただ中であって、これからますます大変になっていくだろうと思います。ですから、そこら辺も含めて、こういうセンターから情報を発信できて、それが役に立ったとみんなに言われるような状況がぜひあればいいなと思っております。今後ともよろしく申し上げます。

ありがとうございました。

○千葉委員 私、個人的には、この2年間は激動のNPOかかわりのような状況でありました。それもこれも、森口係長と出会い、札幌市市民活動サポートセンターにかかわってというところが本当に大きいと思います。私は、これから恩返しをしていかなければいけないという気持ちでおります。微力ではありますが、かかわっていきたいと思います。今後とも元気で応援していきますので、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○中脇委員 今は市民活動から少し離れたところで見ているような感じではあったのですが、自分も含めて、今、市民活動に余り参加していない人にどうしたら活動がリーチされるのかということ、ここに来て皆さんのお話を聞いて、毎回、勉強させていただきました。

何かの本を読んだときに、アメリカかどこかには、その場所に行くと市民活動の全てがわかるような、市民活動のデパートのような場所があるという文章を読んだことがあります。それはすてきだなと思い、いつも頭の片隅にあったのですが、ここもそのような場所になってほしいと思っています。

これから、私がどういうふうにかかわっていけるかわからないですけれども、市民活動に足を踏み込んでいられたらいいなと思っています。

お世話になりました。ありがとうございました。

○平井委員 私も、工藤委員と同じように、2期にわたり委員をさせていただきました。私も、ここから団体を立ち上げて、細々と活動を続けさせていただきました。

年に1回、団体で、去年はここを使わせていただいたのですが、本当に駅のそばに男女共同参画センターがあって、札幌にはこんなにすばらしい施設があるのですねととても褒められます。市民活動団体を何かしたいとか、市民団体を紹介するのもいいと思ったのですが、本当にたくさんの団体が登録されているので、困りごとを抱えた方が市民団体にサポートしてもらおうということもあるのかなと思いました。先ほどのホームページもそうですが、困りごとから入ってくるという市民の人がかかわってくるというのも一つの方法かと思いました。

私の団体は、法人でもなく、小さな小さな任意団体ですけれども、皆さんとつながって

いくことでこれからも活動を続けていけたらと思っています。よろしく願いいたします。  
ありがとうございました。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

安岡委員、お願いいたします。

○安岡委員 運営協議会には札幌市が市民活動サポートセンターの設置者であるという立場で参加しているということですので、どうも皆さん一緒にお話ししているときに、私は委員なのだろうか、事務局なのだろうか、どちらの立場でしゃべっているのかと感じながらお話をさせていただきました。

ここで皆さんにお話をさせていただいて、設立当初にサポートセンターが非常に役に立ったというお話をいただいたり、皆さんの先ほどのお話ではないですが、愛着があるという話を聞いて、本当にいい場所なのだなどと改めて思うところです。

ただ、先ほどもお話がありましたように、知られていないということがあります。これは、さぼーとほっと基金については、先ほど言っていただきましたけれども、寄附する方も、使う方も、知っている人は知っているけれども、知らない人は知らないということで、サポートセンターもそうだと思います。また、市民まちづくり活動自体の活動に参加する方についても、参加する方はするけれども、しない方はしないということで、全てのことをどのように広げていくかは、札幌市にとってもそうですし、サポートセンターにとっても考えていかなければならないところだと思っています。

先ほどプレスリリースができればという話がありましたけれども、周知が非常に難しいというのは仕事をしていて非常に思うところですので、そういったあたりは、皆さんのお知恵をいただきながら、いろいろな方に知っていただいて、活動していただくという形になっていければと思っております。

皆さんとお話しさせていただいたということで、私自身も非常に参考になりましたし、サポートセンターとしても札幌市としても本当に大変ありがたかったと思います。どうもありがとうございました。

どうもありがとうございました。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

新しい事業を起こされたり、若い世代に対して情報発信をしていくことで、今までかわったことのない新しい人たちに入ってもらえるような機会ができたり、いろいろと前に進んでいるなと思いつつも、今の安岡委員の話にありましたように、周知の難しさということは常につきまってきた問題だと思っています。

今回、札幌市のほうで、今までは皆さんがずっと使いづらいついてきたデータベースがようやくすばらしく使いやすくなりそうな予感のもとでつくられていますので、これをうまく活用して、さぼろまちづくり総合情報ポータルができた当時、こちらでいろいろと検討したときから私はかかわらせていただいておりますが、そのときからいろいろと変わっていた内容が大分整理されて、次の世代のサイトが変わっていくのだなということ

ちょっと感慨深く思っています。

ですから、この機会によりバージョンアップした、いつもバージョン1.0から2.0という、相当バージョンアップした感じがあります。今回は2.0という感じだと思います。本当は、もしかしたら3.0なのかもしれませんが、相当アップする感じがしますので、我々も活用したいですし、センターとしても、札幌市としてもうまく活用していけるようになっていけばいいなと思います。

これで、札幌市市民活動サポートセンター平成27年度第2回運営協議会の議事を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。

○事務局（尾崎指導員） 隼田座長並びに委員の皆様、本日は、お忙しい中、議事の進行、また大変貴重なご意見、ご感想をいただき、本当にありがとうございました。

それでは、最後に、エルプラザ公共4施設館長の岡本よりご挨拶申しあげます。

○岡本札幌エルプラザ公共4施設館長 皆さん、遅くまで熱心に協議いただきまして、本当にどうもありがとうございました。

今回の委員の皆様には、平成26年度、27年度という2カ年の任期をお務めいただきまして、その間、このような時間をいただきまして、ご意見を頂戴しましたことに非常に感謝を申しあげます。

それぞれの各分野、活動のご経験から、サポートセンターの糧となるご意見などを頂戴したなど考えております。それらがうまく運営に反映できているかどうかについても、この任期が終わった後も、どうか遠慮なさらずに叱咤激励していただければと思います。

私ども活動協会は、市民活動サポートセンターを管理して10年が経過いたします。そういった中でも、私ども活動協会としては、人と人をつないで、まちづくりに寄与する人たち、市民をふやしていくところが大きな目標となっております。

その基盤をつくる場所ということで、市民活動サポートセンターをこの先も運営できたらいいかと思っております。札幌市と両輪となってまちづくりにかかわる市民の方々がますますふえるようにということで活動を進めてまいりたいと思います。どうか、この先もどうか見守りつつ、叱咤激励いただければありがたいと思います。

2カ年の任期をお務めいただきまして、どうもありがとうございました。

○事務局（尾崎指導員）

以上で、札幌市市民活動サポートセンター平成27年度第2回運営協議会を終了いたします。皆様、本日は、ありがとうございました。

以 上